

1. 科目名 (単位数)	教育学総論 (2 単位)	名古屋	3. 科目番号	EDMP5101
2. 授業担当教員	高橋 勝・鈴木 路子・下出 美智子・内藤 伊都子・石崎 達也			
4. 授業形態	講義・演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	修士課程における必修科目			
7. 講義概要	<p>本教育学研究科修士課程では、複雑化する現代社会における人間形成の諸課題を、子どもから高齢者までの自己形成と生涯発達の見点から深く捉え直す「総合的な人間教育学」を基盤にして研究する。</p> <p>本講義では、多角的な視点から「人間とは何か」「教育とは何か」「文化とは何か」という本質的な問いに取り組むとともに、教育現場が抱える複雑で多様な課題の解決に向けた専門的知見について理解を深めることが目的である。そこで、教育学領域を中心とした人間関係諸科学の専門的知見について理解を深めるために、教育学領域、子ども支援領域・多文化共生領域の各学問領域の専門性を有した研究者らがオムニバス形式で講義・実践演習を行うことにより、今日の教育的課題を多角的かつ柔軟に捉え直す思考力・想像力と領域横断的な研究能力を養うことを目指す。</p> <p>[オムニバス方式/全 15 回] (高橋勝 3 回) -----</p> <p>講義では、「子どもの発見」とその「発達」保障から出発した近代教育学のフレームを、現代の臨床教育人間学から問い直す作業を行う。後発型近代化を終えた定常型社会では、「教育」の前に、「学び」と「意味深い生」が重視され、子どもだけでなく、若者、大人、高齢者も「自ら学ぶヒト」(ホモ・ディスケンス)である。向上志向の「発達」だけでなく、日常の生の不安や危機、老い、死の問題までも視野に入れた、より包括的な人間理解と、それに寄り添う臨床的な教育学の構築が求められる。受講生と共に、新たな人間理解と斬新な教育イメージを探索する。 (鈴木路子 3 回) -----</p> <p>地球規模で変化する社会環境の中にあって、「日々の暮らし」から、生態系の 変容まで、見越した「人類の文化」「共生・共存」「環境保全」「技術開発」「人の生き方」「生きる力」に至る複合された課題に取り組める専門性としての「臨床の知」を院生と共に構築していくことを目指す。 (下出 美智子 3 回) -----</p> <p>グローバル化が進む現代、諸外国の教育比較を行うことは、異文化理解や様々な教育課題の解決に向けて重要な意味を持つ。本講義では人間形成の基礎となる「幼児教育」に焦点をあて、まずは我が国の教育について理論と実践の両者から理解を深め、その上で、受講者(留学生等)各自の国との教育比較を行う。この取り組みを通して、より良い幼児教育のあり方について考えを深めていく。 (内藤 伊都子 3 回) -----</p> <p>グローバル時代の日本の教育場面では、どのような対人関係が形成されその関係間ではどのようなコミュニケーション事象が展開されているのか、またそこにはどのような課題が存在し取り組まれているのか。本講義では、状況的にも対人的にも多様化する日本の教育環境において、文化的影響や対人間のコミュニケーションの実際などについて解説していく。 (石崎 達也 3 回) -----</p> <p>〈今日〉の教育的事象を捉え直し、教育の〈未来〉について考えるためには、〈過去〉の思想家たちの書を歴史的な文脈や状況から丁寧に読み直すことが手がかかりとなる。本講義では人間理解を深めるための方法としての人物・思想研究の意義・方法について解説し、実践をととして文献研究の基礎的素養を磨く機会を提供する。</p>			
8. 学習目標	<p>[全体的な学習目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対話・実践演習を通して、「総合的な人間教育学」について深く考え、多角的な視点から理解すること。 2. 教育現場が抱える複雑で多様な課題の解決に向けた専門的知見を学び、自らの研究に役立てること。 3. 今日の教育的課題を多角的かつ柔軟に捉え直す思考力・想像力と領域横断的な研究能力の基礎を身につけること。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>各担当教員が課すレポート課題を提出すること。</p> <p>(高橋勝) 800 字程度で記述する小レポートを、毎回、課題として出す。</p> <p>(鈴木路子) 人間と環境との接点としての皮膚表面温度の適応生理学的、教育学的意義について考察せよ。</p> <p>(石崎 達也) 各自の研究テーマに関連する人物・思想について考察したレポートの提出を求める。詳細は講義の中で指示する。</p> <p>(内藤 伊都子) 指定した文献を講読し、講義内容を踏まえてレポートを作成する。詳細は講義の中で指示する。</p> <p>(下出 美智子) 指定した文献を事前に購読し、基本的事項について理解しておく。事後に講義内容に応じたレポートを作成する。</p>			
10. 教科書・参考書 ・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鈴木路子『人間環境教育学』、建帛社 <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・齋藤孝『日本を教育した人々』筑摩書房、2007 年。 ・中村雄二郎『臨床の知とは何か』岩波書店、1992 年。 ・幼稚園教育要領 ・高橋勝『子どもが生きられる空間——生・経験・意味生成』東信堂、2014 年。 ・高橋勝『応答する〈生〉のために——〈力の開発〉から〈生きる歓び〉へ』東信堂、2019 年。 			
11. 成績評価の規準と	【評価の規準】			

評定の方法	<p>1. 「総合的な人間教育学」について深く考え、多角的な視点から理解することができたか。</p> <p>2. 教育現場が抱える複雑で多様な課題の解決に向けた専門的知見を学び、自らの研究に役立てることができたか。</p> <p>3. 今日の教育的課題を多角的かつ柔軟に捉え直す思考力・想像力と領域横断的な研究能力の基礎を身につけることができたか。</p> <p>【評価方法】 出席状況及び授業態度（40%）、レポート課題（60%）として、総合的に評価する。</p>
12. 受講生へのメッセージ	<p>これからの研究者には、既存の学問分野に閉じ込められるのではなく、多様な学問分野に関心を有し、既存の枠組みに囚われない見方・考え方をしながら、自らの研究活動を行っていく力が求められている。</p> <p>将来、教員や研究者を目指す受講生には、このような幅広い広い臨床知・実践知としての「総合的な人間教育学」を基盤とした高い専門性と創造性が求められていることを自覚し、講義・対話・実践演習をとおして、自らの資質・能力の向上に努めてほしい。</p>
13. オフィスアワー	<p>高橋勝：授業中に連絡する。</p> <p>鈴木路子：初回授業で通知する。</p> <p>下出：事前に連絡を入れてください（mishimod@ed.tokyo-fukushi.ac.jp）。</p> <p>内藤：事前に連絡を入れてください（itnaito@ed.tokyo-fukushi.ac.jp）。</p> <p>石崎：事前に連絡を入れてください（taishiza@ed.tokyo-fukushi.ac.jp）。</p>
14 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】	
1. テーマ	オリエンテーション —— いま、なぜ臨床教育学なのか（高橋勝）
	<p>【学習の目標】臨床教育学という学問の対象と方法を理解させる。</p> <p>【学習の内容】授業全体の概要と流れを説明した後で、いま臨床教育学が求められる社会的背景を詳しく説明する。</p> <p>【キーワード】臨床教育学、臨床教育人間学、発達と生成、生の危機と再生、受苦的経験、生世界（life-world）</p> <p>【学習の課題】臨床教育学にかかわる主要概念を説明できるようにする。</p> <p>【参考文献】遠藤野ゆり・大塚類『あたりまえを疑え——臨床教育学入門』新曜社、2014</p> <p>【学習する上での留意点】学問は、あたりまえと思われた通念を、内から突破する武器であることを理解できるようにする。</p>
2. テーマ	「発達」から「生世界」（life-world）へ——人間にアプローチする二つの〈まなざし〉（高橋勝）
	<p>【学習の目標】「発達」のまなざしと「生世界」のまなざしという2つのまなざしの違いを他者に説明できるようにする。</p> <p>【学習の内容】近代化の途上では「進歩」、「発達」、「一元的アイデンティティ」が重視され、定常型社会では「日常性」、「生世界」、「他者」が浮上するという〈まなざし〉の変化を詳細に説明する。</p> <p>【キーワード】発達、生世界、日常性、分散するアイデンティティ、生の断片をつなぎ合わせる物語、他者</p> <p>【学習の課題】「発達」（規範）から見る子どもと、「生世界」（事実）から見る子どもとは、見え方が異なることが理解できたか。</p> <p>【参考文献】鷺田清一『現象学の視線——分散する理性』講談社学術文庫、1997 広井良典『定常型社会——新しい「豊かさ」の構想』岩波新書、2001</p> <p>【学習する上での留意点】子ども・若者を見る〈まなざし〉は、その人の社会観が無意識に投影されることを理解させる。</p>
3. テーマ	子ども・若者の「生世界」を理解する（高橋勝）
	<p>【学習の目標】子ども・若者の「生世界」を、参加観察で理解する方法が理解できるようにする。</p> <p>【学習の内容】子ども・若者の生世界を理解するには、「教育」という規範の〈まなざし〉で見ることを一旦中断（エポケー）する必要があることを理解させる。</p> <p>【キーワード】子ども、若者、生世界、物語の共有、ナラティブ、関係性、参加観察</p> <p>【学習の課題】人間を理解するということの難しさが実感できるようにする。</p> <p>【参考文献】高橋勝『子どもが生きられる空間——生・経験・意味生成』東信堂、2014</p> <p>【学習する上での留意点】個性や適性等のコトバで、子どもを安易に評価したり、割り切って見ることの問題点が理解できたか。</p>
4. テーマ	我が国の幼稚園教育の現状（下出美智子）
	<p>【学習の目標】我が国の「幼稚園教育要領」の購読、及び幼児の「表現遊び」の分析を通して、幼児教育についての理解を深める。</p> <p>【学習の内容】幼稚園教育要領の説明と表現遊びの分析</p> <p>【キーワード】幼稚園教育要領、表現遊び、実践分析</p> <p>【学習の課題】幼稚園教育の「ねらい」及び「内容」の理解が出来る。 幼児の表現遊びの分析を通して、表現の様相等の考察ができる。</p> <p>【参考文献】幼稚園教育要領、DVD《幼児の表現—絵本『卵の赤ちゃん』で遊ぼう》</p> <p>【学習する上での留意点】事前に参考文献を読み学習内容について理解しておくこと。</p>
5. テーマ	地域における幼稚園教育の実際（下出美智子）
	<p>【学習の目標】地域の幼稚園訪問（又はDVD等の視聴）や幼稚園教員の講話やインタビューを通して、教育の実際を知る。</p> <p>【学習の内容】私立幼稚園訪問（又はDVDの視聴）、及び園児との交流等</p> <p>、【キーワード】幼稚園の生活、日本文化（茶の湯）、表現遊び、英語で遊ぼう、幼児との交流</p> <p>【学習の課題】活動を通して気付いたことを各自の問題意識に即してまとめることができる。</p> <p>【参考文献】適宜配布する。</p> <p>【学習する上での留意点】園児との積極的な交流に留意する。</p>
6. テーマ	異文化における幼稚園教育の比較（下出美智子）
	<p>【学習の目標】日本の教育と各自（留学生等）の国の教育比較を行い、より良い幼児教育のあり方について考える。</p> <p>【学習の内容】幼稚園教育の比較・検討</p> <p>【キーワード】幼稚園、他文化、比較・検討</p> <p>【学習の課題】活動を通して比較し、自分の考えが発表出来る。</p>

	<p>【参考文献】 適宜配布する。</p> <p>【学習する上での留意点】 事前に留学生等の国の幼稚園教育の概要を調べておくこと。</p>
7. テーマ	教育場面における対人関係 (内藤伊都子)
	<p>【学習の目標】 教育場面における人間関係の調整や社会的相互作用について探求する。</p> <p>【学習の内容】 日本の教育環境を概観し、教育場面での対人関係の形成や維持について考察していく。</p> <p>【キーワード】 対人関係の形成・発展・維持、対人不安、教員と学習者の関係、個人と集団、親密性 など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べておくこと。</p> <p>【参考文献】 石井敏・久米昭元 編『異文化コミュニケーション事典』春風社、2013年 その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身のもつ対人関係を分析し、関連付けて考えてみること。</p>
8. テーマ	多文化共生と教育 (内藤伊都子)
	<p>【学習の目標】 多様性に富む学習者の状況や教育環境について検討し、文化的差異や異文化への理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 多文化共生社会における日本の教育環境について概観し、問題やその対応などについて考察していく。</p> <p>【キーワード】 多文化共生、外国語活動と外国語、学習指導要領、外国人児童生徒、ニューカマー など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べておくこと。</p> <p>【参考文献】 学習指導要領、資料配付、その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身が所属する文化、集団、組織などに関連付けて考えてみること。</p>
9. テーマ	教育とコミュニケーション能力 (内藤伊都子)
	<p>【学習の目標】 コミュニケーションとして表出された人間行動の意味について多面的に解釈できるようになる。</p> <p>【学習の内容】 学校教育で養成を目指す能力と社会で必要とされる能力の意味について考察していく。</p> <p>【キーワード】 学士力、社会人基礎力、コミュニケーション能力、異文化コミュニケーション能力、スキル など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べておくこと。</p> <p>【参考文献】 資料配付、その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身のコミュニケーション行動を分析し、行動の意味を批判的に考えてみること。</p>
10. テーマ	人物・思想研究の意義 (石崎達也)
	<p>【学習の目標】 学問と道徳の関係、学問を志す人間のあり方について探究すること。</p> <p>【学習の内容】 テキストを精読し、ワークシートに理解した内容や自らの問題意識に即した意見をまとめ、話合う。</p> <p>【キーワード】 学問の意味、学問と道徳、生活指導、道徳教育、実学とは何か</p> <p>【学習の課題】 ワークシートを完成させ、口頭発表を行う。</p> <p>【参考文献】 福沢諭吉『学問のすすめ』岩波書店、1978年 齋藤孝『日本を教育した人々』筑摩書房、2007年</p> <p>【学習する上での留意点】 事前に指定箇所を熟読し、疑問点や質問などをまとめてくること。</p>
11. テーマ	人物・思想研究の方法 (石崎達也)
	<p>【学習の目標】 人間の心の葛藤を描く小説を読むことをとおして、人間理解の方法を探究すること。</p> <p>【学習の内容】 テキストを精読し、ワークシートに理解した内容や自らの問題意識に即した意見をまとめ、話合う。</p> <p>【キーワード】 心の葛藤、国語教育の実践、文学作品と教育、人間理解</p> <p>【学習の課題】 ワークシートを完成させ、自らの意見を発表すること。</p> <p>【参考文献】 夏目漱石『ころも』岩波書店、1989年 齋藤孝『日本を教育した人々』筑摩書房、2007年</p> <p>【学習する上での留意点】 事前に指定箇所を熟読し、疑問点や質問などをまとめてくること。</p>
12. テーマ	人物・思想研究の実践 (石崎達也)
	<p>【学習の目標】 各自の研究テーマに関連する人物を深く探究したレポートを作成し、報告すること。</p> <p>【学習の内容】 受講生による口頭発表を行い、各発表に関して話合う。</p> <p>【キーワード】 資料・研究文献の検索・収集法、論文作成につながるレポートの書き方</p> <p>【学習の課題】 これまで各自が研究してきたテーマに関連する人物を選び、レポートを作成し、報告すること。</p> <p>【参考文献】 資料配付、その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 先行研究や文献等、十分な資料収集を行った上でレポートを作成すること。引用参考文献も付記すること。</p>
13. テーマ	臨床教育学への適応生理学的接近：体温調節能力の発達過程を探る指標としての皮膚表面温度の変化の意義 (鈴木路子)
	<p>【学習の目標】 「人間と環境」の接点としての皮膚表面温度の生理学的意義を臨床教育現象の視点から考える。</p> <p>【学習の内容】 皮膚ば延長線上に腸管粘膜が存在する。皮膚粘膜は免疫臓器である事。環境からの刺激を受けて、血管収縮・拡張により、体温は調節される。外部環境と内部環境の接点としての皮膚温の低下上昇の生理的意義・教育的意義に注目する。</p> <p>【キーワード】 皮膚温による調節、自律神経系、免疫臓器、環境刺激一反応系、生理的適応能の発達</p> <p>【学習の課題】 学習環境としての教室内至適温度を探るー学習意欲の減退と冷暖房ー</p> <p>【参考文献】 鈴木路子「人間環境教育学」家政教育社、販売：建帛社</p> <p>【学習する上での留意点】 医学生物学としての理解にとどまらず、教育現象との連動した臨床教育学への接近を図る。</p>
14. テーマ	子どもの発達課題としての疾病罹患傾向、年齢的消長―体質傾向―環境刺激 (鈴木路子)
	<p>【学習の目標】 脳神経系・自律神経系・免疫系・内分泌系等の生理学的調節機能の発達は、学校教育現場での子ども理解に重要な意味を持つ。いわゆる教育生理学的理解の教育的意義を十分に理解し、積極的刺戟―学習課題の存在に気付く。</p> <p>【学習の内容】 心理学的にみた発達課題、教育学的に見た発達課題(学習課題)を成長過程と連動させて理解を深める。</p> <p>【キーワード】 生理心理学的アプローチ、学習意欲、学習課題、空気・水・温熱環境と子どもの発達との相互作用、生体リズム、同調・脱同調</p>

	<p>【学習の課題】 子どもの学習意欲、生きる力等、生命の営み方を十分に理解した上での臨床教育学であることを認識する。</p> <p>【参考文献】 鈴木路子「人間環境教育学」家政教育社、販売：建帛社</p> <p>【学習する上での留意点】 医学生物学的理解にとどまらず、教育現象への生理学的理解から、臨床教育学への接近を図る。</p>
15. テーマ	5人の教育専門家からの講義をまとめ、臨床教育学的思考力を深め、文章化を試みる。(鈴木路子)
	<p>【学習の目標】 多様な専門性の存在を知る。これから研究して行こうと予定している修士論文への専門的立場からの融合を図る。</p> <p>【学習の内容】 脳神経系の発達過程と教育の適時性に注目した多様な視点を理解する。</p> <p>【キーワード】 教育人間学、教育哲学、異分野理解教育、感性教育、学習環境の至適性、脳神経系、免疫系</p> <p>【学習の課題】 自らの研究課題を発見し、5人の教員の専門性との連携を図る。</p> <p>【参考文献】 提示された各教員による参考文献を読み、精査し、融合を図る。</p> <p>【学習する上での留意点】 それぞれの教員の専門性を整理し、各自の研究課題との融合を図る。</p>